

10月



飯仲小だより

令和元年10月1日

令和元年度 第440号

(平成31年度)

児童数 男288名 女238名 計526名

ホームページアドレス

<http://iinakasyou.official.jp/>

### あきらめない心が扉を開ける

「パナソニック」という電気器具を製作している会社の名前を聞いたことがありますか。そのパナソニックという会社を一代で築き上げたのが、松下幸之助さんです。

松下幸之助さんは、16歳で大阪電燈（今の関西電力）に勤務しますが、その在職中に、簡単に取り外しのできる電球ソケットを考案します。そして、その製造や販売を行う会社を設立し、二股電球ソケット、自転車用電池ランプ、乾電池などを考案して会社の経営を軌道に乗せました。今では、私たちの身のまわりに当たり前に存在している電気アイロンやラジオ、テレビ、電気洗濯機、電気こたつ、電気冷蔵庫などの開発も手がけているのです。94歳で亡くなるまで、数々の苦労や危機を乗り越えた人生を歩みました。日本の実業家として世界的にも名を馳せる人でもありました。松下幸之助さんが様々な苦難を乗り越えた中で残した言葉の中に「失敗したところで止めてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければ、それは成功になる。」というものがあります。失敗してもあきらめない、成功するまで続ければ、失敗にはならないということです。いかにも、いろいろな発明を考案して導いてきた松下幸之助さんならではの言葉です。

図画工作科、家庭科などの作品作りでなかなかうまく進まないこともあります。算数科の学習で内容がよく分からずに投げ出してしまいたくなることもあります。けれどもそこで止めてしまっては「成功」にはならないのです。うまくできない、分からないからといって投げ出さずに継続して取り組むことが大事なのです。試行錯誤しながら、時に他者のアドバイスをもらったり、思い切って発想を変えたりしながら時間をかけてとことんやってみることです。あきらめないでがんばる心、成功するまで続ける強い意志をもつことが、今日の前にある扉を開けることにつながっていると思います。

教室訪問をしていますと夏休みに子どもたちが取り組んだ様々な作品が展示されています。どれも力作ばかりです。夏休みにどのように作品作りに取り組むかを予め計画し、始めてみたもののなかなか進まなかったり、途中の休憩が長すぎたり、あわてて仕上げたりと経過はそれぞれだと思います。因みに私が子どもの頃の夏休みの宿題は、計画的に進めていたつもりでも、なぜか余裕をもって終えたことはなかったように記憶しています。もう少し早めに仕上げてしまえばよかったなと思いつつも、繰り返していたかもしれません。ただ、途中で投げ出すことなく最後までやり遂げたことは貴重な経験で、子どもたちに是非ともつけてほしい力です。やり遂げたときの達成感や成就感、満足感は何物にもかえがたいもの、人間としての成長に欠かすことのできない貴重な体験だからです。時間がかかってもよいです。あきらめない心を子どもたち一人一人がしっかりともってくれることを願っています。